

御守り

御箸



御箸・御箸袋について

神道では大麻（おおあさ）は神聖な植物とされています。事実、日本は一万年以上前の縄文時代から「麻の国」としていたる所で麻が栽培され、多くの日常生活資材としても無くてはならない植物でした。

戦前も大麻草は三草（麻・藍・紅花）四木（桑・茶・楮・漆）の中のひとつとして珍重されていました。戦後になると、栽培許可植物となってからも伝統として現在でも鈴繩、注連繩、弓弦、横綱の化粧回しなどに使われています。神社では麻の鈴繩だけでなく、神聖なところには、結界を張る意味で麻紐が使われたり、御幣（ヌサ）にも精麻（麻の繊維）が垂れ下がっています。

さて、お参りにこられる方々や、氏子の皆様に、新しい「御守り」を兼ねた「お箸」を試作致しました。

写真の様に麻の布袋に入った天然樹脂のお箸です。大麻草の繊維から作った布袋の中に「米と麻の天然樹脂」を使用した「地球に優しい天然素材の御守り」です。

御利益も信心も媒介となるモノが神聖で天然であることが好ましいと考えます。

布

糸の番手を変えたドビー柄。緯糸は社会と経済の発展、経糸は個人の健康を願って織った布です。

染め

冠位十二階を参考に草木の染料を使用しました。堅牢性を守る為、媒染剤ではなく、化学染料3%まで色素を守る金属として使用した新しい染色法です。

麻布の染色は日本の天然染めの第一人者である菱川恵佑氏が手掛けます。（通常染めも出来ます）

I-NASO 樹脂

古古米から生成した樹脂におお麻の木質を混ぜた画期的な天然エコプラスチックです（I-NASOとは稲+麻から取った商標）。

米も麻も日本人の文化の拠り所です。廃棄前の備蓄米と和の暮らしを支えた麻の両方を復活させることで、エコロジーの象徴足りうる「日本独自の天然素材」として提案致します。